

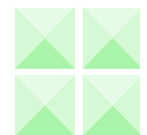


身の周りの人とのコミュニケーションに関する研究

2012年8月

研究報告書

研究代表者 土屋雅子





## ～はじめに～

今から 20 年以上前になるでしょうか。母が、がんと診断されましたのは。当時は、がんの告知はなく、医学的情報もネットなどでは手に入らない時代でした。娘として、何度も手術を受け、化学療法に苦しむ母の姿を傍らで見ながら、今一度大学へ戻る決心をしたことを今でも鮮明に覚えています。

私は、健康心理学という分野の専門家として、1997 年から乳がん患者様の個人面接、2009 年からサポートグループの活動を行っています。今日までの間、変わらず耳にする乳がん体験者の方の訴えの 1 つに、“乳がんに関する悩みを周りの人に話せない”、“周りの人にはわかってもらえない”という孤独感があります。

さまざまな症状を和らげる在宅の緩和ケアにおいては、がん患者様の身体・心理・社会的苦痛を最大限和らげ、日常生活を送れるようにすることを目指します。身のまわりの方とのコミュニケーションによる心理社会的ペイン、すなわち“スピリチュアル・ペイン”を緩和する方略を検討することは、身近な人から必要な援助を得てよりよく生きる環境づくりに繋がると考えます。

このような思いから、本研究を立案し、幸いなことに、公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団 2011 年度在宅医療助成（一般公募・前期）を受けまして、研究を実施することができました。本研究にご協力いただきました皆様には、厚く御礼申し上げます。大変貴重なご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。

簡単ではございますが、調査結果をまとめましたので、お送りいたします。お目を通していただければ幸いです。

2012 年 8 月 土屋 雅子





## ～研究全体の概要～

本研究では、アンケートを用いた調査をおこないました。

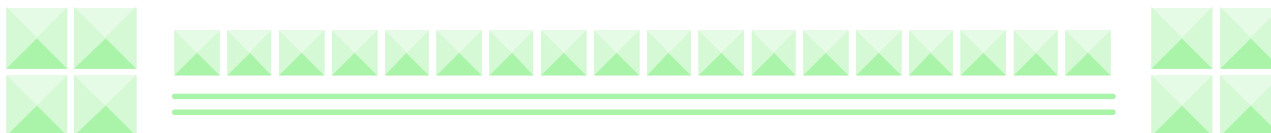
アンケートは主に、みなさまの個人特性に関すること（性別、年齢、結婚歴、ご職業など）に関する質問と、架空のお話（ある人ががんと診断されて、友人、職場の同僚、近隣住民に話す様子を描写）に関する質問で構成されています。

架空のお話は、そのような状況に遭遇したことがある方も、遭遇したことがない方にも回答が可能となるよう用いました（ヴィネット法といいます）。

研究にご協力いただきました方は、①がんをご体験されていない一般住民の方、②がんをご体験された方でした。架空のお話に対する質問文は、それぞれの対象者に合わせて、修正を加えて使用しました。

アンケートの個人特性に関することは、数値として集計をし、架空のお話の質問文に対する回答は、ご自由に記入していただきましたので、文字テキストとしてまとめました。

がんをご体験されていない一般住民の方からのご回答と、がん体験者の方からのご回答は、独立して分析をしました。その後、身近な人からがんを告げられた時の一般住民の方の反応と、身近な人にがんを告げた時の、がん体験者の方が期待する反応を比較しました。



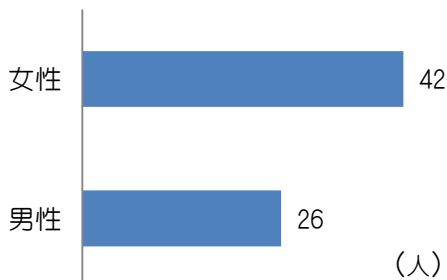
## ～研究にご協力いただきました 一般住民の方について～

2011年10～2012年7月の間、市民活動、地域活動を行っている団体、同窓会、知人等に、協力依頼を行いました（116名）。そのうち、68名から有効回答を得ました。

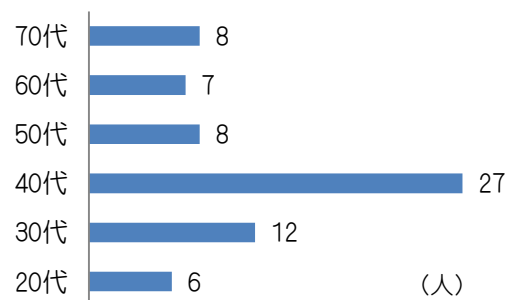


回答してくださいました68名の方の、性別、年齢、結婚歴、ご職業は、以下のとおりです（平均年齢は、47.6歳。居住地区は、87%の方が関東、次に中部、四国、関西地区）。

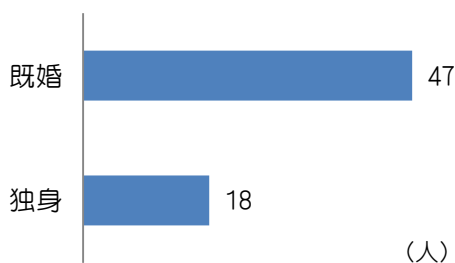
【性別】



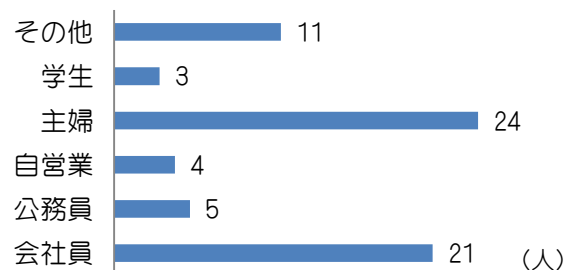
【年齢】



【結婚歴】



【職業】



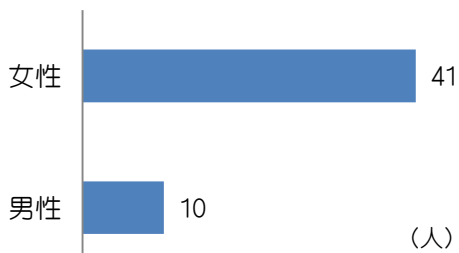
## ～研究にご協力いただきました がん体験者の方について（１）～

2011年10～2012年7月の間、がん患者会代表者の方に、協力依頼を行いました（200名：うち5通があて先不明で返送）。そのうち、51名から有効な回答を得ました。

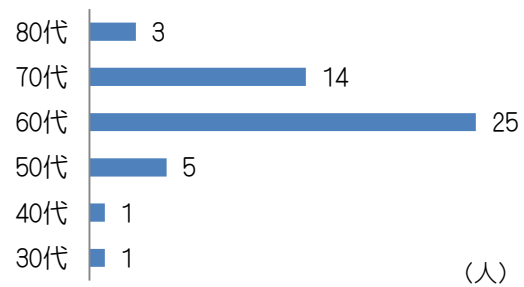


回答してくださいました51名の方の、性別、年齢、結婚歴、ご職業は、以下のとおりです（平均年齢は、67.2歳。平均術後経過年数は、14.2年。居住地区は、62%の方が関東、次に北陸、中部、関西、四国、北海道、東北、九州地区）。

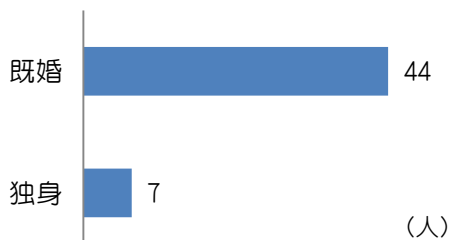
【性別】



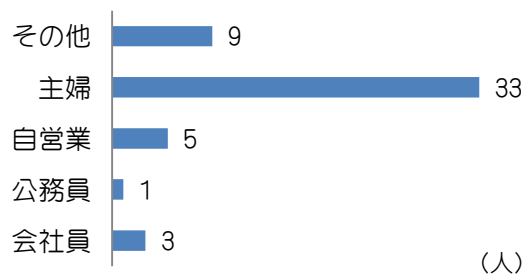
【年齢】



【結婚歴】



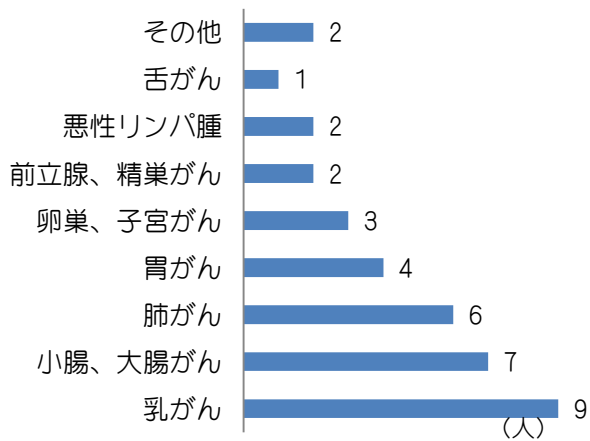
【職業】



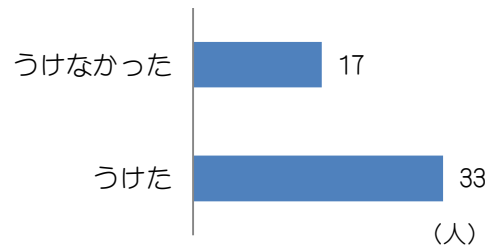
## ～研究にご協力いただきました がん体験者の方について (2)～

がん体験者の方がご体験されたがん，術後療法の有無については，以下の通りです  
(外科的手術に関しましては，90%の方が「うけた」と回答されました)。

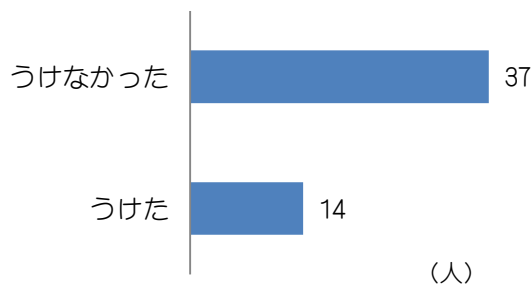
【ご体験されたがん】



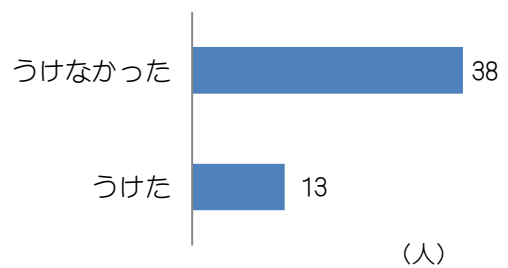
【術後化学療法の有無】

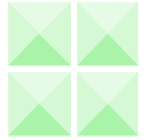


【術後放射線療法】



【術後ホルモン療法の有無】





## ～Aさんが、友人Bさんにがんと診断されたと告げる場面～

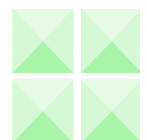
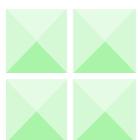
### 【一般住民の方が、もし友人Bさんだったら・・・】

- ・受身的な役割として、＜見守り＞、＜傾聴＞をする。
- ・積極的な役割として、＜励まし＞、＜有益ながんに関する情報提供＞、＜セカンドオピニオンの勧め＞、＜病状の把握＞、＜自分にできることの確認と申し出＞をする。
- ・＜普段と変わらぬ関係性の保持＞をする。  
という回答を得ました。



### 【がん体験者の方が、もしAさんだったら・・・】

- ・受身的な役割として、＜見守り＞、＜傾聴＞、＜がんにかかった自分の受容＞を望む。
- ・＜不安な気持の共有＞を望む。
- ・積極的な役割として、＜励まし＞、＜有益ながんに関する情報提供＞、＜今何をすべきかの助言＞を望む。
- ・＜普段と変わらぬ関係性の保持＞を望む。  
という回答を得ました。





### 【一般住民の方が、前ページのように考えた理由は・・・】

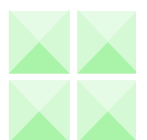
<友人として気持への配慮>， <共に戦おうという思い>，  
<治癒可能な病気>， <自分におきかえて>， <家族や知人のがん体験>，  
<自身の医学知識の乏しさ>， <気力と体力との関連性>から。



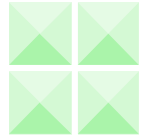
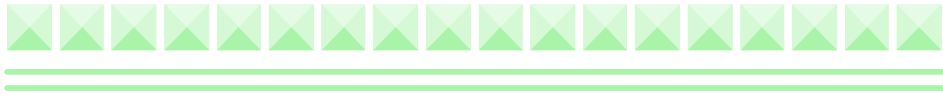
### 【がん体験者の方が、前ページのように考えた理由は・・・】

<がんについての乏しい理解>， <1人だと思いたくない気持>，  
<既に心に決めた決定>， <がんと戦うための更なる情報の必要性>，  
<日常生活の大切さ>から。

友人に受身的な役割を期待した方は、がんについて、またこの先どうなるのかの見通しが難しい、あるいは医師が提案した手術を受けようと心に決めているという傾向が示されました。一方、友人に積極的な役割を期待した方は、既にがんと戦う準備ができているという傾向が示されました。







## ～Aさんが、同僚Cさんに体調不良等を告げる場面～

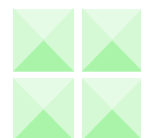
### 【一般住民の方が、もし同僚Cさんだったら・・・】

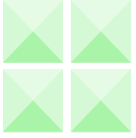
- ・受身的な役割として、＜傾聴＞をする。
  - ・積極的な役割として、＜励まし＞、＜物理的支援の提供＞、＜職場情報の提供＞、＜対処方法に関する検索と情報提供＞、＜情報収集の勧め＞をする。
  - ・相互作用的な役割として、＜対面で話せる場の提供＞をする。
  - ・＜普段と変わらぬ関係性の保持＞をする。
- という回答を得ました。



### 【がん体験者の方が、もしAさんだったら・・・】

- ・受身的な役割として、＜見守り＞、＜傾聴＞、＜病気への理解＞を望む。
  - ・積極的な役割として、＜病気に関する情報収集＞、＜職場復帰を待っているというメッセージ＞を望む。
  - ・相互作用的な役割として、＜情報交換＞を望む。
  - ・＜普段と変わらぬ関係性の保持＞を望む。
- という回答を得ました。





**【一般住民の方が，前ページのように考えた理由は・・・】**

<同僚としての配慮>， <治癒可能な病気>， <自分におきかえて>，  
<家族や知人のがん体験>， <自身の医学知識の乏しさ>，  
<社会の中での存在価値の重要性>， <代替療法の可能性>  
<気力と体力との関連性>から。

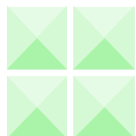


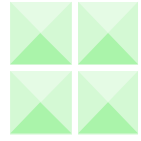
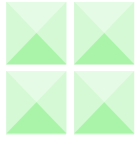
**【がん体験者の方が，前ページのように考えた理由は・・・】**

<孤立無援だと思いたくない気持>， <がんと戦うための知識の必要性>，  
<同僚は職場の様子を知る窓口>， <日常生活の大切さ>から。

友人に期待する反応とは異なり，がん体験者の方から， <相互作用的な役割>  
期待が報告されました。特に，がん治療をきっかけに退職を余儀なくされた  
方は， <職場復帰を待っているというメッセージ>や，職場の仕事の状況と  
病状との「情報交換」が望ましいと回答されました。

職場の同僚からの積極的な働きかけが必要だということが示されました。





～Aさんが、ご近所Dさんに手術を受けたことを告げる場面～

【一般住民の方が、もしご近所Dさんだったら・・・】

- ・受身的な役割として、＜体調への気遣いと理解＞、  
＜一般的な見舞いの言葉＞  
＜見守り＞をする。
- ・積極的な役割として、＜励まし＞、＜地域住民との役割調整＞、  
＜日常生活での支援の提供＞、＜地域での仕事の遂行＞をする。
- ・＜普段と変わらぬ関係性の対応＞をする。  
という回答を得ました。



【がん体験者の方が、もしAさんだったら・・・】

- ・受身的な役割として、＜見守り＞、＜私の病気と体調への理解＞、  
＜私の気持への配慮＞、＜聞き流し＞を望む。
- ・積極的な役割として、＜励まし＞、  
＜地域住民とうまくやっていけるような調整役＞を望む。
- ・＜普段と変わらぬ関係性の保持＞を望む。  
という回答を得ました。





**【一般住民の方が，前ページのように考えた理由は・・・】**

＜健康になることの優先性＞，＜ご近所との関係性＞，＜治癒可能な病気＞，  
＜自分自身におきかえて＞，＜地域交流の大切さ＞，＜お互い様＞  
から。



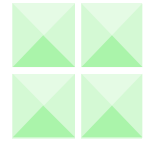
**【がん体験者の方が，前ページのように考えた理由は・・・】**

＜自分自身へのいたわり＞，＜特別視されたくないという思い＞，  
＜近隣住民に迷惑をかけたくないという思い＞，  
＜今後の人間関係にプラスになるという思い＞  
から。

町内会の人に，正直に話すことによる利点（“今後の人間関係にプラスになる”，  
“手助けしてもらえる”）を挙げたがん体験者の方と，正直に話しをすることによる  
欠点（“うわさのように話が拡散する”，“がん患者という目でみられる”）を挙げた  
がん体験者の方がいました。

日ごろからの近隣住民との付き合い方や地域環境が，回答に強く反映されている  
ことが伺えました。





## ～おわりに～



実生活で、  
「ご友人から、がんと診断されたことを告げられたことがある」  
・・・31名 (45.6%)

「職場の同僚から、がん治療による体調不良や不安感を告げられたことがある」  
・・・20名 (29.4%)

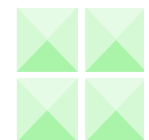
「ご近所の人から、がん手術の経験について告げられたことがある」  
・・・11名 (16.2%)

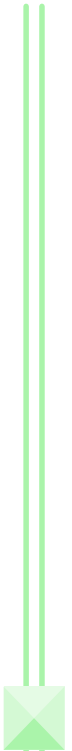
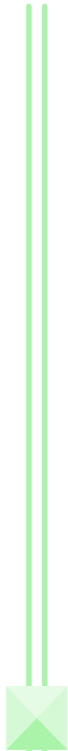
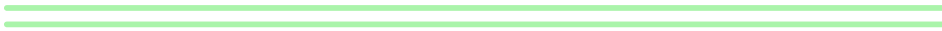
実生活で、  
「ご友人に、がんと診断されたことを告げたことがある」  
・・・48名 (94.1%)

「職場の同僚に、がん治療による体調不良や不安感を告げたことがある」  
・・・31名 (60.8%)

「ご近所の人に、がん手術の経験について告げたことがある」  
・・・31名 (60.8%)

よりよい人生を共に・・・





作成者・お問い合わせ先：土屋雅子  
電子メール [miyako@sky.email.ne.jp](mailto:miyako@sky.email.ne.jp)

この研究報告書は、公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団  
2011 年度在宅医療助成（一般公募・前期）を受けて作成いたしました。

無断での文章の掲載，複写（コピー），複製，翻訳を禁じます。

